

令和4年度 第9回日展 大臣賞受賞者一覧

文部科学大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	りよひん しろ 緑韻に白く	はせがわ よしひさ 長谷川喜久		会員・審査員	強い光と深い影のコントラストが極めて印象的な作品である。日本画ならではの絵具の発色と輝き、あるいは深みと物質感を発揮しながら、実に象徴的な画面に仕上げている。決して派手で、強く自己主張する絵画ではないが、静かに観れば観るほど、深く豊かな味わいを感じることができる絵である。
洋画	せおと 瀬音	おおとも よしひろ 大友義博		会員	日展はアカデミズムを標榜する団体である。洋画部(二科)は、互いに競いあいながら今日の盛況を見るに至った。今回文部科学大臣賞を受けた作者は、東京藝大で本格的な基礎を固めた後、写実の王道を歩いて今日に至っている。 今後の日展、そして洋画界をになう画家の一人であり、この「瀬音」も絵画表現と併せて、音響の世界迄も画面にとり込み、若い女性のみずみずしい生命と共鳴させている秀作である。

内閣総理大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
彫刻	むく よちよう 無垢の予兆	なかほら あつのり 中原篤徳		会員	塑像の石膏作品だが、白一色の表面のディテールに工夫が凝らされ、単純な立像ながらユニークなニュアンスを生み出している。衣装のラフな表現も手足や顔の造作との巧みな対比をなしている。伝統的な技法を、今日的なカジュアルな若者の姿と結び付けている点を評価したい。
工芸美術	かみがみ ざ あめのむらくも 神々の座「天叢雲」	やまぎし たいせい 山岸大成		会員・審査員	現代の感覚を反映する日展工芸の取り組みを象徴する作品である。青白磁による複雑な構成は、非凡な造形力と高い技術に支えられている。その一方で、作品名が示すように、古代から連綿と続く我が国の美や歴史への意識が、壮大なロマンを感じさせるのも魅力の一つである。
書	げんこうもんしく 元好問詩句	なかむら のぶお 中村伸夫		会員・審査員	紀元前に用いられた古代文字を素材として、遒勁な趣きの中に軽妙な筆致を織り交ぜ、書は凍てついた音楽といわれる一回性を改めて認識させてくれる力作である。

令和4年度 第9回日展 東京都知事賞受賞者一覧

東京都知事賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	あめ 雨ニモ...	のうじま はまえ 能 島 浜 江		会員	着想のモダンさに顔料の厚みの表現性が強調され、日本画の可能性を照らす作品と言ってよい。雨の直線と箔押しの装飾性も効果をあげている。濡れることをいとわない澁刺とした心情、新しい世界を創りたいという気概にあふれている。
洋画	とき こ 時を超えて	わたなべ ひろ あき 渡 邊 裕 公	ひろあき 博明	会員	伝統の中に改革する描法としてボールペンを使って細密に表現してきた。新しい技法を確立して新鮮な情感が生まれた。今回の作品は美しい明るい優秀な作品である。
彫刻	ヤマトオグナの御子 ^{みこ}	むらやま てつ 村 山 哲		会員・審査員	古事記の世界の人物を、現代に生き生きと蘇らせた説得力のある作品である。漆を用いた古色の色合いが、効果的に作品をひき立てており、作者の秀でた技法と独自の表現世界が評価された。
工芸美術	い 威 — ついおく しょう 追憶の抄	かとう れいきち 加 藤 令 吉		会員・審査員	手びねりの造型—的確なフォルムは今は亡き者の追憶をしております。装飾は黒織部のデザインと黒泥彩と線象嵌により、意匠の形とも協和が生まれ、未来への明るい光明を表現している土による造形の秀作である。
書	ふうれんもく 風隣目	わたひき とう てん 綿 引 滔 天	こういち 浩一	会員	全体的に先ず構成美を感じさせる作である。疎密に十分な配慮をされ清明さを見事に表現、更に古代文字を現在に蘇らせた技術に驚くばかりである。

令和4年度 第9回日展 日展会員賞受賞者一覧

日展会員賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	うれい 愁	おおにし もりひろ 大西 守博		会員・審査員	画面中央に男性をゆったりしたポーズで淡い色調で全体をまとめ、青年の内面を静かな表情で語りかける姿が印象的で完成度の高い作品です。
洋画	かた 語らい	た なか り な 田 中 里 奈		会員	作品が強く素晴らしい。日展会員賞にふさわしい作品といえる。以前から評論家や著名な作家に注目されており、新しい木版画の先駆者として期待している。
彫刻	てんびょう つき おも 天平の月を想ふ III	い ば や す じ 伊 庭 靖 二		会員	作品全体からの流れが美しい。 頭部から爪先迄の土の糧塊の用途は的確で見事である。 本作品完成迄、多くの古寺に通い試作、習作に励まれたことだろう。 本人が憧れている天平仏像から得た技術が作品の手の表情を強め現代女性のフォルムにうまく合致し、より精神性の高い作品に達している。
工芸美術	うてき 雨滴・ジュラシックツリー	ないとう ひではる 内 藤 英 治		会員	人類の片鱗もみえない太古の地上に、縦横無尽に伸び続ける樹木は、自らの生命を全うするために、葉先に雨を溜め込む。その鋼のような力強さが、藍染による濃淡だけで表現されている。ともすれば単調になりがちだが、手練れの型染で、しなやかさ、鮮やかさを感じさせつつも、存在感溢れる意匠に仕上げている。
書	ちやのゆ こ じ だん 茶湯古事談	くら はし き そう 倉 橋 奇 艸	はじめ 肇	会員	今までに見られなかった新鮮な書き振りで新しい仮名作品の可能性を示すものである。全体のまとまり、抑揚も自然で、好ましい出来となっている。